提言第17号　中心静脈カテーテル挿入・抜去に係る死亡事例の分析－第2報（改訂版）
事例10
＜事例概要＞ 出血 ① 40 歳代、脳性麻痺で胃瘻・人工呼吸器管理中、肺炎の患者。鎮静のためにミダゾラムを頻回に静注していた。 ② 末梢血管確保困難のため、中心静脈カテーテル（トリプルルーメン）を留置予定。 ③ BMI不明（小柄な体格）。抗血栓薬の使用は不明。超音波で右鎖骨下動脈が右内頚静脈 のすぐ背側を走行。 ④ 右内頚静脈よりリアルタイム超音波ガイド下で穿刺。静脈が圧迫で潰れスキャンできなかったが逆血を認め、超音波でガイドワイヤーの位置を確認し20 cm挿入した。カテーテル挿入は抵抗なく、逆血は穿刺部から一番遠いルートで認めなかったが、他の2ルートで認めた。X線でカテーテルの位置・走行に問題ないと判断し輸液開始。翌日、X線で右気胸と胸水貯留を認め、CT でカテーテルの胸腔内迷入が疑われた。カテーテルを抜去したところ血液が湧出、ショック状態となりその約1 時間後に死亡。 ⑤ 死因は、右鎖骨下動脈損傷（穿通）による出血。 死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。